

# エムアファブリー

## 事業の特徴・ポイント

- ・地域の森林組合との協業による、地域特有の資源を活用した事業モデルの構築
- ・熊野の森林づくりから関わる、自然と共生するサステナブル(持続可能)なビジネス展開

## 事業概要

◎エムアファブリーについては、<http://m-affably.com/>

### 1. サロンの開業と地域への想い

- ・平成18年に新宮市内のショッピングセンターの一角でリラクゼーションサロンをオープン。
- ・当時、アロマブームでアロマオイルを購入したい人は多かったが、新宮市近隣では入手が困難であった。そのため、サロンの顧客の要望もあり、市販のアロマ関連商品の販売を開始。
- ・アロマテラピーはヨーロッパで発展してきたことから、西洋の植物が使われることが多い。しかし、子どもの頃から慣れ親しんでいる自然豊かな熊野の香りのアロマオイルを、自分たちの手で作ってみたいという強い想いに駆られていた。折りしも、国内では日本古来の植物から抽出した和の香り「和精油」が注目され始めていた。ちょうどそのころ、偶然にも、1ターンで森林組合に勤務する女性と出会い、熊野の森や自然環境の厳しい現状を知ったことで、香りで森と地域を残すプロジェクトに踏み出す。

### 2. 熊野産アロマオイルの自社開発

- ・熊野川町森林組合の全面的な協力を得て、平成24年度「わかやま農商工連携ファンド」に申請、採択され、熊野産のスギ、ヒノキ、クロモジ等を用いたアロマオイル・アロマウォーターの開発に着手。ノコギリで木を伐り、設備を整え蒸留を行うといった全工程を自社で実施。森林組合をはじめとした地域の人々に支えられながら、ついに平成25年8月に、自社商品としてアロマオイル・アロマウォーターの販売を開始。
- ・熊野の森林植物から抽出したアロマは独特な香りで、他地域の香りとは異なっていた。その原因を探ることが重要と考え、香り成分の数値化・データ分析を近畿大学に依頼。共同研究の結果、熊野の植物は他地域の植物とは香り成分のバランスや組成が明らかに異なるということが判明。成分が異なる要因は、豊かな土壌や気候が影響しているのではと考えられる。



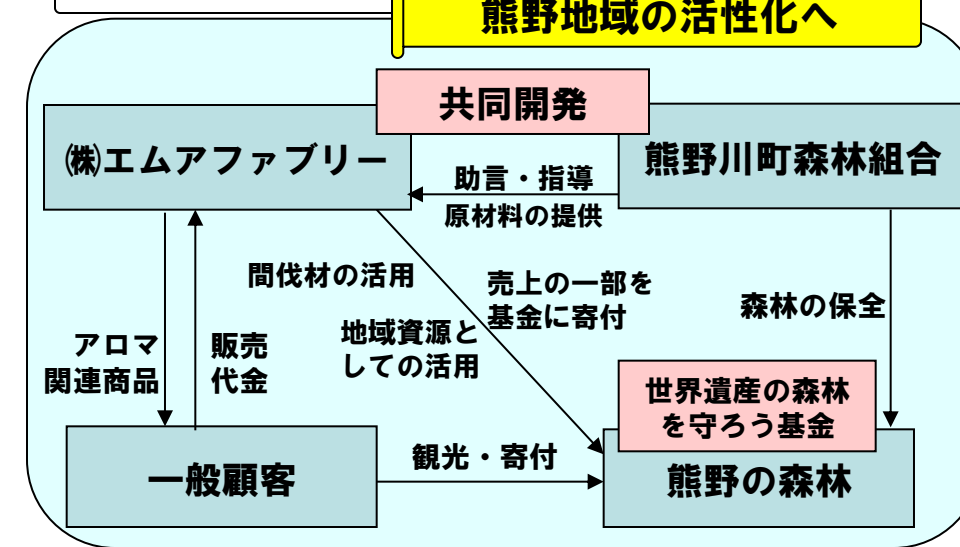
### 3. 機能性アロマとしての商品展開

- ・さらに近畿大学との研究を進めるうちに、熊野の森林植物が放つ独特の香り関連分子の中に、認知症予防や美肌に効果的な成分を持つ、天然の「機能性香り分子」を発見し、日本国内で特許を取得及び出願中。
- ・より多くの人に手に取ってもらいやすい商品として、機能性香り分子を配合した入浴料や保湿クリームを開発。「熊野の香り®」シリーズから、機能性アロマ「熊野香道®」シリーズまで、幅広い商品を、店舗やインターネット販売を中心に、催事でも販売している。

### 4. 地域への貢献

- ・熊野の森林の間伐材をアロマオイルの原材料に活用しているほか、「熊野の香り®」シリーズの売上金の3%を、和歌山県緑化推進会の「世界遺産の森林を守ろう基金」に寄付し、世界遺産の保存や景観の維持への取り組みに参画している。
- ・新宮港への大型客船の入港時に出張販売を行ったり、新宮市のふるさと納税の返礼品として選ばれる等、地域の観光やPRにも貢献している。

## 「香りで森と地域を残すプロジェクト」事業モデル



## 今後の展開・経営戦略

今後は、以下の2つの方向性で事業を展開。

### (1) 地域色を打ち出した商品づくり

熊野の素晴らしさを域外にPRできるよう地域の人々の協力のもと、今後も新しい熊野の森の香りの抽出・商品化に取り組んでいく。



### (2) 機能性を打ち出した商品づくり

特許を取得した「機能性香り分子」を配合した商品の健康・介護分野への販路拡大に加え、機能性化粧品といった新商品開発にも取り組んでいく。

## 産業経済研究員からの一言

●地元の森林植物を利用したことで、熊野の森林の奥深さや地域の課題に気付くきっかけとなった。また、熊野産特有のアロマオイルの香りは、大学での分析によって科学的に成分バランスや組成が他地域と異なることが証明され、商品の差別化もより明確に行えると思われる。

●展示会などを通じて、男女を問わず香りへの関心だけでなく、製造現場や原材料の供給元となる森林への関心の高さを知ることができ、今後の商品戦略の大きなヒントとなるだろう。

●地元の間伐材を原材料に利用したり、売上金の一部を同県の森林保護の基金に寄付するといった、地域経済への貢献や地場産業への還元も、商品の背景にあるストーリーとして効果的に組み込むべきである。